

新日本婦人の会 奈良県本部 香芝支部 西崎恵子

新婦人奈良県本部は、「ヒバクシャ国際署名」の2020年目標の読者×10筆を2月2日に突破しました。私たちは「ヒバクシャ国際署名」と安倍9条改憲NO!3000万署名を「平和の2署名」と位置づけ、「戦争も核兵器も絶対ダメ!」と訴えてきました。目標突破できたのは、支部や班でしんぶんを読み合うなど、学ぶことを大切にしてきたこと、毎月の「9の日」行動に15支部中11支部が取り組んできたこと。支部や班と毎月つながって到達を確認し、目標にこだわってきたことだと思います。

3000万署名も、目標の125%に到達し、新たな目標をめざしています。

今年の新春行動は全支部が取り組み、81人の参加で「ヒバクシャ国際署名」が144筆、3000万署名が176筆寄せられました。

JR王寺駅では、近隣の5支部が毎月の9の日行動を続けています。生駒支部は共同センターと共に、3日は「安倍政治許さない」スタンディング、6・9行動、19日行動と毎月3回行動しています。特に19日の3時間ロングラン宣伝では「平和の2署名」がそれぞれ100筆以上寄せられました。

班や委員会では、暮らし、教育、保育、福祉とどの分野の話をして、最後は「政治を変えないとアカンね〜」「安倍さん、早くやめてもらおう」となり、その思いが署名行動につながりました。

秋以降は、消費税10%中止の署名も合わせてお願いしています。トランプ大統領の言いなりで、武器を爆買いする安倍首相。「暮らしが大変なとき、消費税をあげるなんてとんでもない。武器の爆買いをやめれば、福祉・教育など私たちの暮らしに役立つことに、税金を使うことができる」と、訴えています。

2月5日には、新婦人が取り組む予算要求行動で、「統計不正徹底究明!改憲、増税、武器爆買いとんでもない」と、約47万の署名を国会に提出しました。若い世代も国会行動を体験しようよびかけ、全国から60人の若い世代が参加し、奈良県からも子育て中の2人が参加しました。香芝支部から参加した私は、新婦人に入るまで、就学援助制度のことは知らなかった。制度について、市民に丁寧に知らせるよう香芝市に要望すると、「丁寧に知らせると制度を受ける世帯が増えるから、知らせていない」と返答されたことなど実態を告発し、国会でも話題になりました。

今年の夏は記録的な猛暑で、小学校で児童が熱中症のため亡くなるという痛ましい事故がありました。このニュースを聞き、奈良市でも教室は35度を超えている。毎日、安心して学校に送り出せないなど、SNSでお母さんたちの声を集めて、緊急に奈良市教育委員会に「教室にエアコンを」と申し入れをすると、「これは命の問題。前向きにすすめる。問題は財源」と回答されました。

早速、奈良市や香芝市では他団体と一緒に署名に取り組み、これまで署名行動に参加したことのない会員も、子どものためならと勇気を出して、駅頭に立ちました。1人で何百人分も集めたお母さんもいました。文科副大臣にも直接交渉し、若いお母さんたちが実態を告発して迫りました。こうした運動で国を動かし緊急の予算がつけました。エアコン設置率全国ワースト2位の奈良県でしたが、今年の夏にむけて、ほとんどの市町村で予算が付き、エアコン設置が進められています。

私たちが動けば政治は変えられる!武器よりも、〇〇を!憲法がいきる社会へ、被爆国にふさわしい役割を果たす日本政府へと、選挙で変える!と行動をひろげ、これからも若い世代とベテラン世代との並走で、平和を守る取り組みを若い世代に引き継いでいきたいです。